

## 我孫子市立湖北小学校 令和5年度「全国学力・学習状況調査」の結果

### ① 成果と課題

#### 国語

前回（令和4年度）と比較すると「読むこと」、「書くこと」の領域で平均正答率の向上が見られました。「読むこと」においては、目的を意識して、中心となる語や文を見つけて要約することが、よくできていました。「書くこと」においては、図表やグラフなどを用いて、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができていました。「書くこと」は全国や県の平均正答率と同程度の出来栄でした。

しかし、「話すこと聞くこと」については、前回の本校の数値や、全国平均や県平均と比べて正答率が低い傾向があります。目的や意図に応じ、話の内容を捉え、話し手の考えと比較しながら自分の考えをまとめる問題が、難しかったようです。また、選択式や短答式の問題に比べ、記述式の問題では、無解答率が高くなる傾向が見られること、漢字の書き取り問題の正答率が低いことなどが課題となりました。この2つの課題については毎年の課題となっているため、文章を読み取ることに引き続き力を入れつつ、読み取ったことを元に、自分の考えを述べたり、他者の考えと比較しながら自分の考えを述べたりする活動に、引き続き力を入れていきたいと思えます。さらに、漢字学習でも力を入れていきたいと思えます。

#### 算数

前回（令和4年度）と比較すると、正答率では同程度の出来栄でした。領域別に見ると、「変化と関係」領域で向上が見られました。伴って変わる二つの数量について、表から変化の特徴を読み取り、あてはまる数を見出す問題では、全国や県の平均正答率を上回りました。

しかし、「図形」領域に関しては課題が見られました。図形の意味や性質を答える問題や面積を比較する問題では、正答率が低かったです。また、国語同様記述式問題にも課題が見られます。無回答率は低いですが、正答率において全国や県の平均を大きく下回っております。こちらも国語同様、例年の課題となっているため、基礎・基本となる知識の確実な習得を目指し、指導を続けていきます。特に記述式問題では、自分の考えの根拠が必要な場合が多いので、基になる知識や情報から、相手にわかりやすく説明する活動を、今後も続けていきます。

算数に限ったことではありませんが、児童個々の正答率に二極化が顕著に見られます。タブレット等を活用し、一人一人の習熟状況に合わせた学習課題の設定や指導を今後も検討し、実施していきたいと考えています。

#### 質問紙

「生活習慣・学習習慣」及び「規範意識」の分野が高い傾向にあります。「毎日、同じぐらいの時刻に寝ているか、起きているか」という質問では、全国平均よりも高い結果となりました。また、「人の役に立つ人間になりたいと思うか」や「普段の生活の中で、幸せな気持ちになることはどれくらいあるか」、「夢や目標を持っているか」という質問でも、前向きな回答が多く見られました。

反面、「自己有用感」の分野はやや低い傾向にあります。「自分には、よいところがあるか」という質問では、「当てはまらない」と答えた児童の割合が、全国平均よりもやや高い結果となりました。また、「朝食を毎日食べているか」や「家で、自分で計画を立てて勉強をしているか」という質問でも、全国より低い結果となりました。さらに、「学校以外での学習時間」においても全国平均よりも少ない傾向が見られました。学習時間では、本校児童は「30分以上～1時間」と答えた児童が最も多く、全国では、「1～2時間」と答えた児童が最も多かったです。本校児童の、生活や学習習慣の成果と課題を参考に、今後の指導に役立てていただきたいと思います。

勉強で学んだことを、勉強以外の普段の生活に活かしたり、学習の必要性をより感じたりできるように、工夫して指導していきたいと思えます。めまぐるしく変化する現代において、自ら考え、学び、行動できる人を育成していけるよう、本校の教育目標である「やさしくかしこくたくましく」を大切に、教員間だけでなく、保護者・地域の皆様とチームとなって指導に当たっていきます。

### ② 今後の取組について

学力の向上のため、課題に向けて以下のような方策を立て、取り組んでいきます。

#### ○言語活動と読書活動の充実

研究教科に国語科を位置づけ、『「読むこと」において考えることを形成できる児童の育成～感想や考えを書く活動を通して～』をテーマに、言語活動に取り組んでいます。一昨年度までの「書く」の活動を生かして、読んだことを元に感想や自分の考えを書く活動を行っています。そのために学んだ知識や自分の体験をふり返り、言葉で表現させることを大切にしています。

また、今年度は、新聞を用いた「NIE (News in Education)」の取り組みも行っています。記事を読み、わかったことや感じたことなど、自分の考えを書く活動につなげています。

#### ○学習サポーター・スクールサポーター・少人数指導教員等の活用

1～2年生にはスクールサポーターが入り、算数を中心とした学習の支援を行っています。3～6年生には、学習サポーターや少人数指導教員が入り、こちらも算数を中心とした支援を行っています。学年が上がるにつれ、苦手意識を持ちやすい教科ですので、基礎基本となる知識や計算の力を確実に身につけられるよう、複数の教員で協力しながら学習を進めています。

#### ○タブレットの活用

タブレットを活用し、個別に課題を設定したり練習問題に取り組ませたりしていきます。さらなる活用や方法を模索・検討しています。ドリル学習と併用し、有効に活用していきたいと考えています。

#### ○教職員研修の充実

例年、湖北小では、教員の授業力向上をねらいとし、初期層教員研修を設定しています。また、全国学力・学習状況調査の問題を分析したり、重点とする指導事項を確認したりして身につけさせるべき力を共通理解して授業を進めています。